

## 6 例会はセリ会

(今年度から企画部の要請でまた復活しました。)

6月16日(火)の例会は恒例の“なんでもセリ会”です(去年は12月の例会だけでした)。

たくさんの皆さんの出品と活発なセリへの参加をお願いします。

出品は標本、生き虫、書籍、虫グッズ、食草、その他なんでも結構です。

ただし天然記念物など法令で採集が禁止されているものは受け付けられません。

出品申し込み： 5月25日から6月10日まで

出品点数： 一人5点まで(出品が多くて全部セリにかけられない場合は、3点か4点になりますから、優先順位をつけておいてください)

写真があったほうが出品物のものがわかりやすいです。

標本はそのまま落札者に渡せるように、容器に入れてください。

前回同様落札額の20パーセントを多摩虫の会計に繰り入れさせていただきます。

### 出品申し込み

多摩虫メールに加入している人は、多摩虫メールに送ってください。写真があったら添付してください。

多摩虫メールに加入していない人は企画の宮崎宛に文書を郵送してください。

165-0023 東京都中野区江原町3-17-7 宮崎茂穂

T: 03-3952-5863 ML: shigeho-miyazaki@wine.plala.or.jp

### 出品登録の要領

優先順位 出品者 品名 産地 説明 数量 底値(100円単位) の順に簡明に記述して下さい。

1. 多摩虫郎 オオムラサキ 京都府加茂郡 飼育・展翅品・スギタニ型 1♂ ¥500
2. 多摩虫郎 牧野植物図鑑 絶版で入手困難、程度良好 上下2冊組 ¥12000
3. 多摩虫郎 蝶のテレホンカード 未使用・図柄はキリシマミドリ 3枚一組 ¥1500
4. 多摩虫郎 ハマセンダン 実生苗・30cm高、鉢植 1本 ¥300
5. 多摩虫郎 オオルリシジミの写真・背景に浅間山 A4 1枚 ¥500

.....

### 第1回東京都の生物調査会

新しい企画で、毎年東京都の各地の生物調査を行います。たくさんの会員の参加を期待します。

日時 6月21日(日) 午前10時集合(雨天の場合は翌週の日曜日28日に順延します)

場所 八王子市裏高尾町小下沢林道

小下沢林道のゲート内旧キャンプ場広場に10時に集合します。企画部から説明後、自由に林道で観察・採集・撮影などを行います。前もっての参加申し込みは必要ありません。当日、都合のよい方は自由に参加してください。

12時に林道の奥で中間に小屋があったところで皆一緒に昼食をとります。そこは飲み水も汲めます。午後2時に再びキャンプ場に集合し、その日の成果を発表して3時ごろ解散します。

蝶に限らず、蛾、甲虫、トンボその他、何でも採集、記録して集計します。

バスは高尾駅から小仏行きが頻繁に出ています。日影沢で下車してください。車の場合は、小下沢入り口の梅林の前に駐車してください。キャンプ場には車は入れません。

ご家族も同伴して構いません。特に子供たちは歓迎します。

調査結果は多摩虫会報で報告します。

蛾、甲虫、トンボ、その他蝶以外の昆虫に詳しい人は是非参加してください。採集品の同定をお願いします。

\* 新入会員（よろしくお願ひいたします）

田中淑喬 〒228-0806 相模原市栄町14-12 T: 042-743-1282

\* メアド変更

中村英夫 don\_giovanni216@yahoo.co.jp 郷原雅敏 mgbara@m09.itscom.net

\* 橋本英利さんから¥4000のご寄附をいただきました、厚く御礼申し上げます。

\* 新文紙上より



双眼鏡や虫取り網を手に吹上御苑内の自然にふれる子供たち（5日午前、皇居・吹上御苑で）＝代表撮影



### 皇居で昆虫採集

小学生80人 07.5.6 読売

天皇、皇后両陛下のお住まいがある皇居・吹上御苑で5日、恒例の「自然観察会」が開かれ、小学生約80人が都心に残る希少な森の中を散策した。

御苑内の約25％の森は、戦後、できるだけ手つかずにと管理され、樹齢300年以上のスダジイなどの樹木がうっそうと茂る。子供たちは約1時間半、虫取り網を手に昆虫採集を楽しんだり、専門家から動植物の説明を受けたりした。

### オス不要の生きた証拠

07.4.21 読売(9)

クビアカモモブトホソカミキリという長い名前の虫がいる。本州では奈良の春日山などに局所的に生息するが、不思議なことにメスしかいない。なぜって、この虫は単為生殖をしているからだ。メスの子供はすべて自分と全く同じ遺伝子組成をもつクローンである。子孫を残すのにオスは不要であることを示す生きた証拠である。ヒトのメスも全てクローンで子供を作ると、男はこの世界から消えてしまう。世の男たちがヒトのクローン作りに反対する理由は、案外こんな所にあるのかもね。

池田清彦



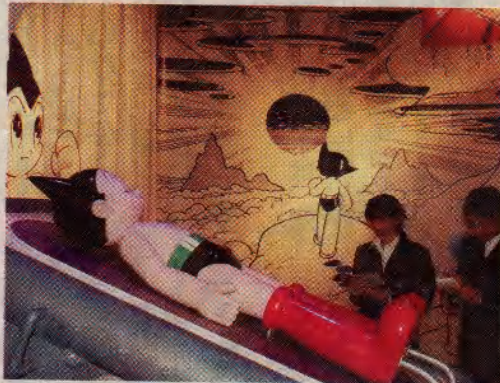
西表島や台湾にも同じ種（別種という説もある。私は同じ種だと思いがいて、

こちらの方にはオスもいる。本州にオスがいない理由は恐らく、本州はこの種の分布の北限で、有性生殖で遺伝子を組み換えると、ぎりぎりの環境に適應できない子供が沢山産まれるからだと思う。

しかし、環境が激変するとクローンは全滅する可能性がある。だから普通はオスがいて、遺伝的多様性を保った方が、種の絶滅確率は減るはずだ。環境が変わらなければ、メスにとっては自分の遺伝子を100％残せる単為生殖の方がよいに決まっている。オスは単に種の絶滅確率を減らすバツアップコピーにすぎないらしい。

（生物学者）

# 手塚治虫少年の「昆虫手帳」



子どもにも人気の「鉄腕アトム」のコーナー

09.5.16  
読(7) 生誕80周年展で

10代の子どもたちにも人気のマンガやアニメを数多く残した漫画家、手塚治虫(本名・治)氏の生誕80周年を記念した特別展「手塚治虫展〜未来へのメッセージ〜」(読売新聞社など主催)が、6月21日まで東京・墨田区の江戸東京博物館で開かれています。

に、60年の生涯をたどる写真や愛用品が計460点ほど並んでいます。

中でも目を奪われたのは、子ども時代のコーナー。大阪府豊中市で生まれ、マンガ好きの両親に育てられた氏が、小学3年の時に描いたマンガ『ピンピン生ちゃん』の直筆原稿が展示されています。自らをモデルに描いたストーリーのある作品は、クラスで回覧され、先生の間でも評判だったといえます。



手塚真さん

少年時代を過ごした兵庫県宝塚市の野山で、昆虫観察をする際に持ち歩いた「昆虫手帳」には、チョウの模写や、採りのがした時のくやしきなどをつづった文章が、きちょうめんに記されています。

国産初の本格的なテレビアニメシリーズ「鉄腕アトム」のコーナーでは、アニメの設定と同じ大きさのアトムの人形が展示

されるなど、親子で楽しめるように工夫されています。

同展を監修した長男の手塚真さん(47)に話を聞きました。「昆虫手帳」について、「書き直したところがなく、丁寧に描いていることから、自然をとて大切に思っていた気持ちも伝わります。大人になって環境問題をテーマにマンガを描くことができたのは、少年時代に、人間が林を開拓して昆虫を追いやったことに気づき、感じたことを忘れなかったからだと思います」。

そして、「マンガは日本の優れた文化の一つです。父の作品とメッセージは、映画など様々な形で伝えられていきますが、マンガそのものも、ずっと読み続けてほしいですね」と話していました。

(中2・高原玲央、中3・平井絵未理、高1・高松奈々、高2・田中成美記者)

## ピンクのイナゴ



北区で捕獲、展示  
08.10.19 読(7)  
背中が鮮やかなピンク色のイナゴ写真が、北区立自然ふれあい情報館(十条仲原4)で飼育、展示されて人気を集めている。

中村文夫館長が10月上旬、敷地内にある自然園の田んぼ近くの草むらで見つけ、2匹の捕獲に成功。さらに13日も、同じ場所で3匹目が見つかった。

普通は背中が緑や茶色のコバネイナゴが遺伝的な原因で変色したらしい。中村館長は「卵を産んだので、来年、ピンクの子供が生まれるかどうか楽しみ」と話した。同館 ☎03・3908・0804。